

建  
白  
書

建白書

神奈川縣和嶺國大住洵綾兩郡百三十三ヶ町村納稅者惣代  
某等謹テ 佐野元老院議長閣下ニ白ス 某等伏テ惟ルニ今  
ヤ我國細大ノ事更改正ヲ要スベキ者舉ゲテ數フルニ違  
アラズ大ハ政体制度ヨリ小ハ百工技藝マデ皆ナ多少ノ更  
正ヲ加フベキ時運ニ遭際シタリ是レ即チ我朝ニ於テ百事  
更正ノ時期ナリト稱スベキ者ニシテ又タ之レチ創業多難  
ノ秋ナリト云ハザルベカラズ如何トナレバ更正ノ事ハ必  
ズ無數ノ障礙アリテ其前途ニ盤錯シ又タ許多ノ弊害アリ  
テ其ノ背後ニ追隨スルヲ古今ノ通患ナレバナリ夫レ此ノ  
多難ノ際ニ處シテ能ク前途ノ障礙ヲ排キ又タ背後ノ弊害  
ヲ拒キテ以テ改正ノ好結果ヲ領收スベキ要訣ハ唯リ之レ



ガ順序ヲ正スノ一ニ存スル所以ノ理ハ蓋シ閣下ノ明カニ通曉シ玉フ所ナリ而シテ閣下ノ日常衆議官ヲ統轄シテ拮据黽勉シ玉フ所亦タ一ニ此ニ在ルベシ去レバ在野ノ者ト雖モ苟クモ其ノ學識上若クハ思想上ニ於テ得ル所ノ意見アラバ之レヲ閣下ノ左右ニ呈シテ以テ參照ノ萬一ニ供セザルベカラズト雖モ其ノ所謂ル國家改正ノ順序ノ如キハ誠ニ重大ノ問題ニ屬シテ卓識ノ士ニ非ルヨリハ決シテ之レが得失ヲ判定スルコト能ハザルヲ如何セン故ニ某等ハ敢テ猥リニ國家全体ノ更革ニ關シテ啄ヲ容レント欲スルニ非ス唯某等ノ休戚上切ニ政府ノ改正ヲ加ヘラレンコトヲ願フテ措ク能ハサル所ノ者アリ今其ノ概略ヲ陳述シテ以テ閣下ノ清聽ヲ汚瀆セント欲スルノミ

抑モ某等ノ休戚上切ニ政府ノ改正ヲ加ヘラレンコトヲ願フテ措ク能ハザル所ノ者ハ即チ各種地租徵收期限是ナリ夫レ各種地租徵收期限ハ明治十年七月ヨリ本年十一月ニ至ルマテ滿六年餘ノ間ニ於テ其改正ニ係リシモノ前後併セテ三回ナリトス若シ夫レ此ノ三回ノ改正ヲ經テ定メラレタル現行ノ徵收期限ハ專ラ政府ノ便宜ノ爲メニセラレタル者トセンカ某等ハ只タ痛哭シテ己マザルヲ得ザルベシ若シ又タ一般人民ノ休戚ニ視テ斯ノ如クニ定メラレタル者トセンカ某等ハ竊カニ政府ノ爲メニ功チ一簣ニ欠ガル、ヲ惜マズンバアルベカラス而ツ某等ハ常ニ政府ノ寛厚ニシテ善ク人民ノ休戚ヲ察スルコトニ勉メシル、ヲ信ズルコト厚キガ故ニ此ノ徵收期限ノ如キモ亦タ專ラ納稅者ノ得

第四期	第三期	第二期	第一期	明治十年七月	明	ノ休戚上ニ如何ノ影響ヲ生シタルカヲ簡單ニ告白スベシ
自該年一月一日限	自該年十一月一日限	自該年十一月一日限	自該年七月一日限	制定各種地租徵收期限		
田方	同上	同上	畑方及宅地山林			
五分	三分	五分	二分			

第五期	自翌年二月一日限	同上	田方	五分	第五期	自翌年二月一日限	同上	田方	五分
第六期	同月三十日限	同上	田方	五分	第六期	同月三十日限	同上	田方	五分
第一期	同該年七月一日限	同上	田方	五分	第一期	同該年七月一日限	同上	田方	五分
第二期	同該年九月十一日限	同上	田方	五分	第二期	同該年九月十一日限	同上	田方	五分
第三期	自該年十一月十五日限	同上	田方	五分	第三期	自該年十一月十五日限	同上	田方	五分
第四期	自翌年十一月十八日限	同上	田方	五分	第四期	自翌年十一月十八日限	同上	田方	五分
明	治十六年十一月改定各種地租徵收期限	同上	田方	五分	明	治十六年十一月改定各種地租徵收期限	同上	田方	五分
第一期	同上	同上	田方	五分	第一期	同上	同上	田方	五分
第二期	同上	同上	田方	五分	第二期	同上	同上	田方	五分
第三期	同上	同上	田方	五分	第三期	同上	同上	田方	五分
第四期	自翌年二月十一日限	同上	田方	五分	第四期	自翌年二月十一日限	同上	田方	五分



夫レ此ノ三回ノ改正ヲ經タル各種地租徵收期限ハ前後緩急ヲ異ニスルヲ蓋シ最モ甚シトス而シテ其第三法ハ第二法中ノ第四期ノミヲ改正シテ少シク寛假セラレタレモ未タ大ニ某等ヲシテ満足スルニ至ラシメラレズ故ニ第二第三ノ二法ハ暫ク一個ノ新法ト看倣シ之レヲ舊法ト對比シテ其ノ得失ヲ開陳スベシ

謹デ舊法即チ明治十年七月改定ノ地租徵收期限ヲ案ズルニ即チ其ノ貢納期ハ該年七月一日ニ起リテ翌年四月三十日ニ終ハリ且ツ之レヲ六回ニ分テ時期ニ應シテ其ノ分合ヲモ輕重セラレタル者ナリ故ニ納稅者ハ大小ヲ論ゼズ第一ニハ畑方田方ノ二種トモニ該年度ノ收穫ヲ以テ貢納スルノ便宜ヲ得第二ニハ一定ノ租額ヲ數回ニ分納スルノ利

益ヲ得テ其ノ負擔ヲ感ズルヲ爲メニ幾分ノ輕キヲ爲シタリ抑モ農民ハ日夜耕耘ニ勞働シテ米麥禾薯ヲ收穫シ之レヲ販賣ニ非ルヨリハ復タ他ニ一錢半厘ノ通貨ヲ得ベキ方便ヲ有セズ而シテ我現行法ハ必ス通貨ト交換シテ後チニ之レヲ貢納スルヲ要トセラレタルガ故ニ其ノ該年度ノ收穫ヲ以テ貢納スルヲ得ルノ便宜ハ畜ニ之レヲ尋常便宜ノ意義ト同視スベキニ非ズ寧ロ唯一ノ方法ナリト云ハザルベカラザル者ナリ如何トナレバ農民ハ時ニ或ハ單一ニ租稅ヲ納ムル爲メノ故ニ勞働スルガ如キヲ決シテ渺カラザレバナリ又タ其ノ一定ノ租額ヲ分チテ之レヲ數回ニ貢納スルコトノ細民ニ取リテ利益タルヤ恰モ一定ノ負債ヲ拂フニ月賦若クハ年賦ニ依ルヲ便トスルト同一ニシテ其ノ理

甚々明白ナリトス況ンヤ農民ニハ米麥ノ他ニ販賣スベキ  
財料ナク此ノ唯一ノ財料ナ一時ニ多賣セント欲セハ供給  
需要ニ超過シテ價ヲ減ズルノミナラス奸商ノ乗ズル所ト  
爲リテ特ニ之レヲ引キ下ケラル、ノ不幸ヲ免レザラント  
スルヲ去レハ此ノ第一法ハ實ニ全國ノ納稅者ヲシテ因  
テ幸ニ休スルヲ得セシメラレタル者ト云フヘシハ  
之レニ反シテ新法ハ先ツ一般納稅者ヲシテ田方地租ノ一  
半ヲハ概シテ之レニ一割以上ノ利息ヲ付シテ貢納セザル  
ヲ得ザラシムル者ト云フベシ抑モ該年十一月一日ヨリ其  
ノ十二月十五日マデハ猶ホ米ノ收納期ニ屬シテ未タ之レ  
ヲ市場ニ輸スルニ至ラザルノ秋ナリトス故ニ農民ハ此ノ  
時期ニ於テ強ヒテ通貨ヲ得ント欲セハ必ス他ニ借ラザル

ヲ得ズ既ニ之レヲ借ル以上ハ又タ必ス一割以上ノ利息ヲ  
拂ハザルヲ得ズ是レ即チ一定ノ租額ニ間接ノ利息ヲ付シ  
テ貢納スルト同一ノ理ニシテ英人アダムスミスノ所謂ル  
凡ソ租稅ヲ徵集スルニハ到底國庫ニ入ル所ノ者ノ外ハ勉  
メテ人民ノ經費ヲ要セザルノ方法ヲ用ユヘシト云ヒシ旨  
ニ背戾セザルヲ得ザル者ナリ加之ナラス其ノ納期六回ヲ  
減シテ四期トナシ納額ハ通シテ五分ト定メ且ツ前ニ許サ  
レシ所ノ三十日ノ猶豫ヲ廢シテ痛ク徵收ヲ急ニセラレタ  
ルハ即チ亦タスミスノ所謂ル凡ソ租稅ハ納稅者ノ爲メニ  
至便ノ時節ト方法トニ由リテ之レテ徵集セザルベカラス  
ト云ヒシ者ニハ非ズシテ實ニ一般納稅者ノ深ク戚ム所ナ  
リ若シ夫レ期限ヲ縮ムルガ故ニ更ラニ若干ノ猶豫ヲ與ヘ



期限ヲ緩クスルガ故ニ其ノ猶豫ヲ廢スト云ハ、誠ニ當然  
ノ理義ナルベキニ此ノ改正ノ如キハ然ラス期限ヲ急ニセ  
ラレタルガ上ニ猶從來ノ猶豫ヲモ併セテ之レヲ廢セラレ  
タルハ實ニ某等ノ痛惜シテ措ク能ハザル所ナリキ然リト  
雖モ幸ニシテ十四五ノ兩年度ハ物價ノ高貴ナリシガ爲  
メニ畑方所得ノ幾分ヲ三期ノ貢納ニ充テ得タルト當時全  
融ノ今日ノ如クニ逼迫セザリシトニ依リテ新法ノ不便ニ  
苦シミナガラモ亦ク納税ノ義務ヲ果スニ幾分ノ便ヲ得タ  
リシガ本年ノ如キニ至リテハ三期ノ貢納ニ窘蹙シテ己ム  
コナクンバ公賣處分ヲ甘受センカト覺悟スル者亦ク尠カ  
ラザルニ至レリ豈ニ慨嘆ニ耐フベケンヤ  
議者或ハ曰ク本年物價ノ低落ニ依リテ多少ノ困難ヲ蒙リ

シ者豈ニ獨リ農民ノミナランヤ凡ソ高價ノ物品ヲ購ヒ置  
キタル者ニ在リテハ皆ナ此ノ難ヲ免レザルベシ且ツ物價  
ノ昂低ハ一定不變ノ者ニ非ズ其ノ低落シタルニ依リテ困  
難ニ罹リシ者ハ他日又々其ノ昂騰スルニ逢ヘバ則チ慶福  
ヲ得ベシ去レバ本年第三期ノ貢納ニ困却スルハ是レ新法  
ノ不長ナルニ基ヒスルニハ非ズシテ物價一般ノ低落ニ原  
因シタリト云ハザルベカラズ此ノ一時ノ變ニ逢フテ輒チ  
税法ヲ改メント欲セバ殆ント税法ハ物價ト共ニ變革更正  
セザルベカラズ是レ豈ニ爲スベキノ事ナランヤト夫レ此  
ノ論ハ一往ノ道理アルガ如シト雖モ未タ眞ニ農民ノ利害  
ヲ察セザルノ說タリ抑モ本年第三期ノ貢納ニ苦シム者ノ  
特ニ前年ニ比シテ多キハ誠ニ物價ノ急變ニ原因セザルニ

非ズト雖其ノ物價ノ昂低ニ依リテ難易ヲ異ニスルガ如  
 キノ貢納期ヲ置カル、モノハ是レ新法ノ欠典ニ非ズト云  
 フヲ得ベカラザルナリ抑モ新法ノ第三期ハ上ニ既ニ論ゼ  
 シ如ク其ノ米價ノ高貴ナルト廉價ナルトニ拘ハラズ未タ  
 田方ノ收穫ヲ以テ金ニ代フベカラザルノ時期ニ属スルガ  
 故ヲ以テ到底納稅者ハ畑方所得ノ餘分ヲ以テ之レニ充ツ  
 ルカ否ラズンハ他ニ負債シテ之レヲ貢納セザルベカラズ  
 而シテ其ノ畑方所得ノ餘分ヲ以テ第三期ノ貢納ニ充テ得  
 ベキ者ハ全國納稅者ノ中ニ於テ十ノ二三ニ過キザルベク  
 且ツ此ノ十ノ二三中ニテ物價ノ昂低ニ拘ハラズ能ク之レ  
 ヲ辨ズベキ者ハ亦タ其ノ十ノ二三ニ過キザルベシ去レハ  
 之レヲ概シテ云ハ、畑方所得ノ餘分ヲ以テ眞ニ三期ノ貢

納ヲ辨濟スルニ耐フベキ者ハ殆ト百中ノ二三ニ過キズ而  
 シテ他ハ悉ク負債ヲ以テ此ノ義務ヲ果サマルヲ得ザラン  
 トス況ンヤ十二月ハ一年間ノ取リ引キヲ結了セザルヲ得  
 ザルノ時期ニ属スルヲ以テ其ノ通貨ヲ要スルヲ極メテ多  
 端ナルノ月タルヲヤ嗚呼一國人民ヲシテ租稅ヲ貢納スル  
 ガ爲メニ年々負債ヲ起サマルヲ得ザラシムル者ノ如キハ  
 惡ク之レヲ善良ノ制度ナリト稱スベケンヤ是レ即チ某等  
 ガ休戚上切ニ之レヲ改正セラレンコトヲ願フテ已ム能ハザ  
 ル所以ノ一ナリ  
 議者又タ曰ク現行稅法ノ第三期ヲ以テ納稅者ノ爲メニ不  
 利ト爲シ之レヲ改正セラレンコトヲ冀望スルハ則チ可ナリ  
 其ノ舊法ノ六回ニ分タレタルヲ賞讃シテ之レニ復セント



欲スルハ不可ナリ如何トナレハ納税期ヲ數回ニ分ツキハ  
自ラ其ノ徵收費ノ増加ヲ要スベケレバナリト夫レ此ノ論  
モ亦タ實ニ一往ノ道理アルベシト雖モ未タ眞ニ數學ノ理  
ヲ解セザルノ説タルニ過キズ今夫レ稅費ハ人民ノ曾テ  
官府ニ納メ置キタル租税中ヨリ支出スベキ費用ノ一目タ  
ルガ故ニ徵收期ノ數ヲ減シテ爲メニ其經費ヲ減ゼバ誠ニ  
國庫ヨリ出ヅル所ノ費用ノ幾分ヲ減ズベシ是レ或ハ直  
接ニ稅費ヲ減ズルノ一端トハ成ルヲ得ベシ然リト雖モ  
若シ此ノ直接ノ減額ノ爲メニ却テ間接ノ經費ヲ要スルコ  
多キヲ加フルニ至レバ則チ其ノ減少ノ效驗ハ適サニ人民  
ノ疾苦ヲ増スノ一トナラザルヲ得ザルベシ面シテ我現行  
法ハ之レヲ舊法ニ比スルハ或ハ直接ニハ幾分ガ徵收費

ヲ減ゼラレテ爲メニ國庫ノ支出ヲハ輕減セラレタルベシ  
ト雖モ納税者ノ計算上ニハ大ニ經費ヲ加ヘラレタルノ實  
苦ナキヲ得ザルナリ上ニ既ニ略陳セル如ク一定ノ租額ヲ  
一時ニ納ムルト之レヲ數回ニ分納スルトハ其ノ難易ノ上  
ニ於テ大ナル差異アルガ故ニ其ノ易キヲ爲ス能ハズシテ  
難キヲ爲サザルヲ得ザルハ則チ許多ノ冗費ヲ要スル亦  
タ是レ避クベカラザルノ數ナリ加之ナラズ一時ニ多クノ  
税金ヲ得ント欲セバ必ス一時ニ多クノ米麥ヲ販賣セザル  
コトヲ得ス一時ニ多クノ米麥ヲ販賣セント欲スルハ必ス  
需要ニ應スル丈ケノ價格ニ引キ下ゲザルベカラズ、需要ニ  
應ズル丈ケノ價格ニ引キ下ゲント欲スルハ稅額相當ノ  
米麥ノ他ニ餘分ノ米麥ヲ販賣シテ其ノ不足ニ充テザルベ

カラズ是レナ米麥ヲ蓄積シテ漸時ニ之レヲ賣却スルノ價  
ヲ減ゼザルニ比スレバ其ノ人民ノ利益タル。夫レ果シテ幾  
何アヤ之レヲ要スルニ納稅者ハ需要ニ應ジテ所得ヲ賣リ  
其ノ代金ヲ貢租ニ充ツレバ誠ニ租稅ノ實額ノミヲ貢納ス  
ルヲ得ベク一時ニ多ク販賣セザルヲ得ザルハ間接ニ  
於テ其ノ貢租ノ實額ノ他ニ強ヒテ市價ヲ下ゲシムル丈ケ  
ノ損失ヲ爲ササルベカラズ而シテ我現行法ハ即チ實ニ納  
稅者ヲシテ此ノ多賣ノ損失ヲ免レ得サラシムル者ナリ嗚  
呼一國人民ヲシテ到底國庫ニ入ル所ノ者ノ外ニ幾何クノ  
經費ヲ多要セシムル者ハ惡ク之レヲ善良ノ制度ナリト云  
フベケンヤ是レ即チ某等ガ休戚上切ニ之レヲ改正セラレ  
ンヲ願フテ己ム能ハザル所以ノ二ナリ

夫レ我現行徵收期限ハ某等ガ休戚上ニ影響スルヲ斯クノ  
如ク太タ大ナルガ故ニ某等ハ敢テ忌諱ヲ憚ルニ迫ナク其  
ノ概畧ヲ告白シタリ政府幸ニ某等ガ不遜ノ罪ヲ寬恕シテ  
唯其ノ疾苦ノ狀情ヲ憐察セラル、所アラバ某等ガ其ノ恩  
澤ニ浴スル當サニ廣大無量ナルベシ今謹テ某等ガ冀望ヲ  
具陳スル左ノ如シ

## 第一ノ冀望

一明治十年七月制定ノ徵收期限ニ復セラレタキ事

## 第二ノ冀望

一到底六期ニ分ツヲ許サル、能ハズンハ第一期ヲ該年  
七月一日ヨリ同九月三十日限、第二期ヲ十月一日ヨリ十  
二月二十五日限、第三期ヲ翌年一月一日ヨリ同二月二十



八日限、第四期ヲ三月一日ヨリ四月三十日限ト改正セラ  
 レタキ事ニ付、同日三月三十日限第二回ハ四月十一日  
 以上開陳スル所ハ實ニ某等ガ休戚上切ニ政府ノ改正ヲ加  
 ヘラレンコトヲ願フテ措ク能ハザル所以ノ概トス而シテ其  
 ノ國家全体ノ改正ノ事トハ果シテ如何ノ交渉ヲ有スベキ  
 歟ハ某等ノ得テ知ル所ニ非ズト雖モ只ダ閣下ノ此ノ事  
 ナリ以テ先務トスベキ者ノ一ニ加ヘラレンコトヲ懇祈スルナ  
 リ某等卑賤ヲ顧ズ猥リニ威嚴ヲ冒瀆ス其ノ罪遁ル、所ヲ  
 知ラズ誠惶誠恐頓首敬白

明治十六年十二月一日

神奈川縣相模國大住海綾兩郡

百三十三ヶ町村納稅者惣代

何 某 印

元老院議長佐野常民殿閣下

